

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I.理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	理念は管理者と職員が共同して作成している。また、各職員がいつでも理念を確認できるよう理念を記載したものを配り実践に繋げている。			施設理念は今後も職員全員にしっかりと周知し実践してもらえるよう施設全体で取り組みを強化していきたい。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地域との日常的な交流は図れていないが、施設行事や運営推進会議、ふれあいサロンの場にてある程度の交流はできている。	運営推進会議等を通ししっかりと施設の活動状況の確認ができている。また、コロナやインフルエンザ等の感染症の状況にも合わせて地域とのつながりは柔軟な対応ができている。		地域とのつながりがもっと密になるように今後は町内の各種行事等への参加を増やしていきたい。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議で皆様からいただいた意見を取り入れ、業務に活かすことでサービスの向上に繋げている。	運営推進会議では事故やヒヤリハットの報告、その他きめ細かな報告もなされており、その対応と処置の適切さに利用者や家族も安心している。		令和6年度までの運営推進会議はコロナ等の感染症のことも考え30分としていたが、令和7年度からは時間を少し伸ばすなど、より良い意見交換の場となるよう話し合いの時間を増やしていきたい。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護保険係や地域包括の担当者との連携は密に図っている。事業所の実情報告については主に運営推進会議の場で行っている。	行政との連携は密に図れていると思われる。ケア会議等への参加で情報の共有もできている。		今後も包括や役場との連携を密に図り利用者や家族により良いサービスが提供できるよう努めていきたい。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束をしないケアの実践のため、委員会の開催、施設内研修の実施を行い取り組みを強化している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	来年度も身体拘束防止に関する研修を積極的に実施し、身体拘束をしないケアへの取り組みを一層強化していきたい。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年度から虐待防止委員会を設置している。また、虐待防止研修も年に2回実施し施設全体で虐待防止に取り組んでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	来年度からは虐待防止委員会の活動を本格的に行っていききたい。委員会の開催や施設内外の研修に力を入れ虐待防止に施設全体で取り組んでいきたい。

7	権利擁護に関する 制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている ③ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	権利擁護についての施設内研修を実施しているが、職員への周知はまだまだできていないと感じる。			権利擁護に関しての各職員の理解はまだまだだと思う。来年度は研修をしっかりと行い職員の知識向上に努めたい。
8	契約に関する説明 と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	① A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約前や契約時に利用者本人や家族への聞き取りをしっかりと行い疑問点や不安点について十分な説明を行っている。			契約時はこれまでと同様に利用者、家族へしっかりと説明を行い、疑問点や不安点に丁寧に対応できるよう取り組んでいきたい。
9	運営に関する利用者、 家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている ② B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者・家族の意見等は面会時や電話でしっかりと聞き取りを行い運営に活かすよう取り組んでいる。		A. 充分にできている ② B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者、家族とのコミュニケーションをしっかりと図り、その意向や要望に対して期待に応えられるよう運営の強化に努めていきたい。
10	運営に関する職員 意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 充分にできている ② B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員からの提案や意見については、普段から言いやすい職場環境を作るよう実践している。出た意見は運営や業務に十分に反映できている。			職員からの意見を聞く機会は今後も全体会議やユニット会議がメインになると思う。少ない機会ではあるが、そういう場でしっかりと意見を聞き運営に反映できるよう努めていきたい。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている ② B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	規定に基づく昇給や夏冬の賞与、サービス残業をさせないなど、各職員がストレスなく一定のやりがいや向上心を持って働けるよう環境の整備を行っている。		A. 充分にできている ② B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	モチベーションの向上にはやはり賃金アップが最も効果的だと思われる。難しい課題ではあるが待遇面の向上について代表者や理事の方々との話し合いを積極的に行ってきたい。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 充分にできている ② B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	内部研修・外部研修への参加を各職員へ呼びかけ実践している。業務中においても管理者を中心に若手職員や新人職員への指導をしっかりと行っている。		A. 充分にできている ② B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	来年度も各職員のスキルアップのため施設内外への研修参加を積極的に呼びかけていきたい。
13	同業者との交流を通じた 向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている ③ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	同業者との交流は地域包括ケア会議や定期的な電話をすることで行っており十分とは感じていない。			来年度はケア会議への参加や同業者への定期的な訪問、電話でのやりとりを増やし、ネットワーク作りの強化、サービスの質の向上に努めていきたい。

14	本人と共に過ごし 支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場に おらず、暮らしを共にする者同士の関係 を築いている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者と職員は暮らしを共にする 者同士ということを意識し同じ目 線で接すよう心掛けています。			グループホームは家庭的な雰囲気 の中暮らしを共にするというのが最 も大切なコンセプトなので、今後もそ のことを意識し支援を行っていきた い。
15	馴染みの人や場と の関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支 援に努めている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族、親戚、友人、知人などとの 面会は十分に支援している。馴染 みの場所との関係性について は十分な支援ができていないか もしれない。	感染症流行時においても様々な工夫 を行い外部との交流ができている。 「ふれあいサロン」への参加も始めた ことはとても良いことだと思う。		家族や友人との面会は本人に元気 を与えるものだと思う。これからも多 くの時間を馴染みの人と過ごせるよ う支援を強化していきたい。
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、 一日の過ごし方の希望や意向の把握に努 めている。	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人一人の暮らしへの希 望は、本人や家族から都度聞き 取りを行い把握に努めている。			今後も利用者一人一人がその人ら しい生活を送れるよう、その思いや 意向の把握に努めていきたい。
17	チームでつくる介 護計画とモニタリ ング	本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	約3か月に一度のモニタリング やサービス担当者会議にて各関 係者からの意見の聞き取りを行 い、そこで出た意見を参考に現状 に即した介護計画を作成するよう 努めている。	モニタリングやアセスメントをしっかりと 行い、利用者一人一人の状態に合 った内容のものが作られている。今 後も利用者本意の計画となるよう協 議を尽くしてほしい。	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人一人のケアプランをケア マネー一人で考えるのではなく、ユニット 職員全員で考え、より質の良い計画 を作成できるよう取り組んでいき たい。
18	個別の記録と実践 への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに 活かしている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員間の情報共有は口頭はもち ろん介護記録や申し送りノートも 活用し、その情報をしっかりと介 護計画に活かすよう努めている。		Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も口頭での申し送りやノートで の申し送り、介護記録からの情報共 有をしっかりと行い介護計画の見直 しに活かしていきたい。
19	一人ひとりを支える ための事業所の多 機能化	本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人や家族とコミュニケーション を頻繁に取ることでニーズの把握 に努め、必要なサービスとはなに かを考え様々な提案を行うよう努 めている。	利用者のことをしっかりと考え四季 折々のサービスが提供されている。 異常の早期発見もできており、利用 者、家族に対して安心感を与えてい る。		利用者の状態は常に変化する。これ からもその時々状態を見極め、状 態に合った適切な支援が行き届くよ う努めていきたい。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができよう 支援している	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	活用できる地域資源や利用者一 人一人の残存能力の把握に努 め、利用者がその残された能力 で自分らしい生活ができるよう支 援している。	感染症等の影響もまだまだあるが、 町内会、地域の事業に積極的に参 加できている。職員のたゆまぬ努力 で地域資源を十分に活用し利用者の 幸せに大きく貢献している。		地域資源は様々なものがあり活用 できるものできないものがある。その 見極めをしっかりと行い利用者にブ ラスに活用できるよう取り組んでい きたい。

21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	受診はほとんどなく訪問診療にて利用者の体調管理を行っている。内科的なものではなく外科的なものについては他科受診し適切に対応している。			医療との連携体制は万全と言える。様々な症状に対して適切な治療、処置が行われている。医療との連携は今後もより強化していきたい。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	病院の関係者との情報交換は電話や訪問で都度行っている。入院した際は早期退院に向け連携を強化している。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	令和6年度、入院した利用者はゼロである。施設においてある程度の治療が可能なためである。今後入院があった場合は早期退院ができるようしっかりと連携強化を行っていききたい。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度化した場合の対応や看取り介護については、契約時に十分な時間をかけ家族へ説明している。また実際に看取り介護開始となる場合には、改めてその詳細を家族へ説明している。		☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	重度化や終末期の対応については契約時に家族に詳細を説明している。また、看取り介護開始時にも改めて説明し納得をいただいている。看取りに関することは大事な部分なので今後もしっかりと説明を行っていききたい。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変時や事故発生時の対応については施設内研修を行い、その中に実技も取り入れ訓練を実施している。			今後も施設内研修や外部研修参加を積極的に行い、急変時や緊急時の対応のレベルを上げていきたい。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 充分にできている B. ほぼできている ☒ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	火災に対しては年に2回の避難訓練を実施している。また、今年は初めて地震発生時の対応についても訓練を実施した。避難させる方法や地域との協力体制は今後より強化していかなければならない課題である。	火災に対する訓練は十分にできているがそれ以外の災害に対する訓練が不十分である。地震や水害、噴火に対する訓練も行ったほうが良い。	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	地震を想定した訓練は令和6年度から少しずつではあるが実施できている。今後はあらゆる災害に対応できるようにするため、訓練や勉強会の開催に力を入れていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	適切ではない言葉遣いや声掛けについてはすぐに指導を行い改善するよう取り組んでいる。プライバシー保護の意識も強くもつよう心掛けている。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	声掛けは利用者との良好な関係性を築くために最も大事なことである。だめな声掛けも稀に見られるので、職員がお互いに指摘し合い改善できるよう取り組みを強化していききたい。

27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	すべてが利用者本位とはなっておらず施設都合の場面も一部で見られる。今後はできるだけ利用者本位の生活になるよう改善していきたい。			支援面においてまだまだ施設や職員都合になっている部分があるので今後は少しずつでも良いので職員皆で話し合い改善していきたい。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事準備や後片付けはできるだけ利用者と一緒に行うようにしている。献立も様々な工夫をして利用者が食事を楽しめるよう取り組んでいる。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の楽しみは誰にとっても非常に大事なことである。今後も利用者各自の好みを把握し、皆様に喜んでもらえるような献立作りをしていきたい。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事摂取量や水分摂取量はチェック表にて一日のトータルがわかるようにしている。食べる量については利用者一人一人の状態を見ながら調整している。			食べる量や水分摂取量は今後も独自のチェック表を活用し、栄養状態の悪化防止や脱水症状にならないよう支援をしっかりと行っていきたい。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	歯磨きは利用者一人一人の状態を見ながら自立、一部介助、全介助での支援を行っている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	自力のできる利用者、介助を必要とする利用者、それぞれの状態に合った支援を今後も行っていきたい。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	おむつの使用を減らす取り組みは行っているが、介護度の上昇や身体機能の低下が顕著な利用者はオムツ使用が多くなっている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の平均介護度も上がってきている中ではあるが、できるだけオムツを使わずトイレでの排泄ができる支援を今後も行っていきたい。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	これは以前からののだが、入浴日は毎週火曜日と金曜日で固定されているのでほぼ施設側の都合となっている。			自らが希望するときに入浴できることが最善のことなので、今後は入浴の固定日以外でも希望すれば入浴できる日を職員全員で知恵を絞って考えていきたい。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者のその時々状態に合わせて休養を支援している。			利用者一人一人体力も違えばその日の体調も違う。これからも各利用者の状態をしっかりと把握し、必要な休息の支援を行ってきたい。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	薬については薬局から届く薬情があり各職員がいつでも閲覧できるようにし、用法や用量を理解するよう努めている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症のため利用者本人が薬の目的や副作用の理解をすることは難しい一面もある。今後もそのような利用者に代わり我々職員がしっかりと

							薬に関しての知識を高めていきたい。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	充実した生活の実現のため、レクリエーションや毎月の大きな行事を行っている。レクリエーションについては利用者一人一人の残存能力を考慮しながら工夫を行い支援している。	毎日のレクや毎月の行事はしっかりと行われている。飾り物も工夫が見られ四季を感じるができるよう考えられている。		集団で行うレクリエーションに力を入れることももちろん大事だが、利用者各自でできないことがあるので、今後は個別のレクについてもアイディアを出し取り組みを強化していきたい。
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない Ⓓ ほとんどできていない	外出については利用者の希望通りの支援ができているとは言えない。現状、レクリエーションや行事の際に外出している程度である。	外に出ることは精神的にも肉体的にも健康的なので、リフレッシュの意味も兼ねて支援を継続してほしい。今後も支援可能な限り外出支援を頑張ってもらいたい。		今後は花見レクやドライブレク以外でも、ちょっとでもいいので施設の周りを散歩するなど、支援を強化し外の空気に触れることのできる機会を作っていきたい。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている Ⓒ あまりできていない D. ほとんどできていない	基本的にはお金を持つことは禁止している。しかし一部ではあるが認知症の症状が軽度の方については少額を持つことは許可している。			金銭を所持しないことで不安感に襲われる利用者もいる。家族とも相談し色々な観点から判断しなければならないが、必要性のある利用者には金銭を所持することを今後も許可していきたい。
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事務所の電話を使うことで家族や友人などへの電話を支援している。手紙のやりとりは現状ほとんど見られない。			手紙のやり取りをしている利用者は現在いないが電話で家族と交流している利用者は複数人おりとても喜ばれている。今後も馴染みの人との交流を最大限支援していきたい。
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	基本的には全館バリアフリー対応となっている。共有空間については季節ごとに飾りつけを変えてできるだけ四季の変化を感じることができるよう支援している。		A. 十分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ホール内や居室前の壁への飾り物の工夫など、四季を感じるができる利用者一人一人にとって居心地の良い空間作りが実現できるよう取り組みを強化していきたい。

Ⅳ. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人一人の暮らしに対する意向を汲み取り、その人らしい暮らしができるよう支援している。			100%実現することは難しいが、今後も利用者の思いや意向の把握に努め、できるだけ本人の望む生活ができるよう支援を行っていききたい。
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活歴や生活習慣は本人や家族から聞き取りを行っており、その情報をもとにケア・支援を行っている。			利用者一人一人のこれまで歩んできた人生の情報をしっかりと把握し、今後も自分らしい人生が送れるよう支援をしていききたい。
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	安全面・環境面についてはしっかりとアセスメントを行うことでケアしている。健康面・医療面については医療との連携を密にすることで支援を強化している。		Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人一人のアセスメントをしっかりと行い安心・安全なケアを実践していききたい。医療面に関してはこれまで同様に協力医療機関との連携の中でしっかりと体調管理を行っていききたい。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者一人一人の生活ペースに合った支援ができるよう施設全体で取り組んでいる。			今後も利用者各自の生活のペースや生活習慣を大切にし、充実した穏やかな生活が送れるよう支援を行っていききたい。
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	馴染みの物や大切にしている物を本人の居室に置くなど工夫を行いながら支援している。		Ⓐ 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者各自が大切にしている物、馴染みにしている物があり、それが近くにあることによって精神的に安心して生活することができる。家族の協力も得ながら今後も支援を続けていききたい。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない Ⓓ ほとんどできていない	外出は本人の希望通りには支援できていない。頻度で言うと月に一度くらいのペースでの外出支援となっている。	外出は楽しさもある一方危険なこともある。また、職員の負担も大きいのでできる範囲での支援で良いと思うが、様々な工夫をしながら頻度は少しでも増やしてほしい。		今現在の外出の頻度は月に一度の行事のときくらいである。今後はドライブや買い物、散歩など、レクリエーションとして外へ出る機会を増やしていききたい。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 充分にできている Ⓑ ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	アセスメントをしっかりと行い利用者一人一人の身体機能の把握に努め、各利用者のできること、できないことを判断している。その上でできることを支援しながら役割ややりがいを感じてもらっている。			アセスメントをしっかりと行うことで利用者各自の残存能力を把握し、その上でできること、できないことを判断しながら利用者一人一人に適切な支援ができるよう取り組んでいききたい。

47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症の症状などを見ながら各利用者に合った会話の内容や声の掛け方を工夫している。		A. 充分にできている ☒ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者同士の会話、レクリエーションや行事への参加、家事作業のお手伝いなど、やりがいを見つけ自信を持って生活できるよう支援していきたい。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない ☒ D. ほとんどできていない	地域との繋がりや関わりは運営推進会議や大きな行事のときくらいしかできていないというのが現状である。	地域との交流には活発なアプローチが必要であり、利用者本人の自覚をサポートし、今後どんどん地域交流を盛んにしてもらいたい。		感染症や人員不足など様々な要因によりこれまでは地域の行事への参加はあまりできていなかった。来年度はできるだけ多く地域交流の場に行けるよう施設全体で取り組んでいきたい。
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家庭的な雰囲気の中、職員もほとんど変わらず馴染みの関係を築けている。そういう意味では利用者に一定の安心感を与えることができていると思う。	看取り介護の実施など地域の施設として十分に役割を果たしている。利用者に対する安心・安全の担保もしっかりとあり、職員の質の高さも見られる。今後も素晴らしい認知症ケアの実践を期待するとともに職員の皆さんも健康を第一に頑張ってほしい。	☒ A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も利用者一人一人が楽しく笑顔で暮らせるよう、そして安心・安全・安楽に過ごせるよう、施設全体で利用者本位の支援に取り組んでいきたい。